

外観（新旧煙突）



挨拶（不燃・粗大ごみ処理施設ホール）



見学通路（不燃・粗大ごみ処理施設）



収集車で集められた粗大ごみ
可燃性粗大ごみ(主に木製)、不
に分けて貯めています。
また、不燃ごみから回収した小

手選別作業の様子（不燃・粗大ごみ処理施設）



新焼却施設と不燃・粗大ごみ処理施設をつなぐ渡り廊下（増設）



中央制御室（新焼却施設）



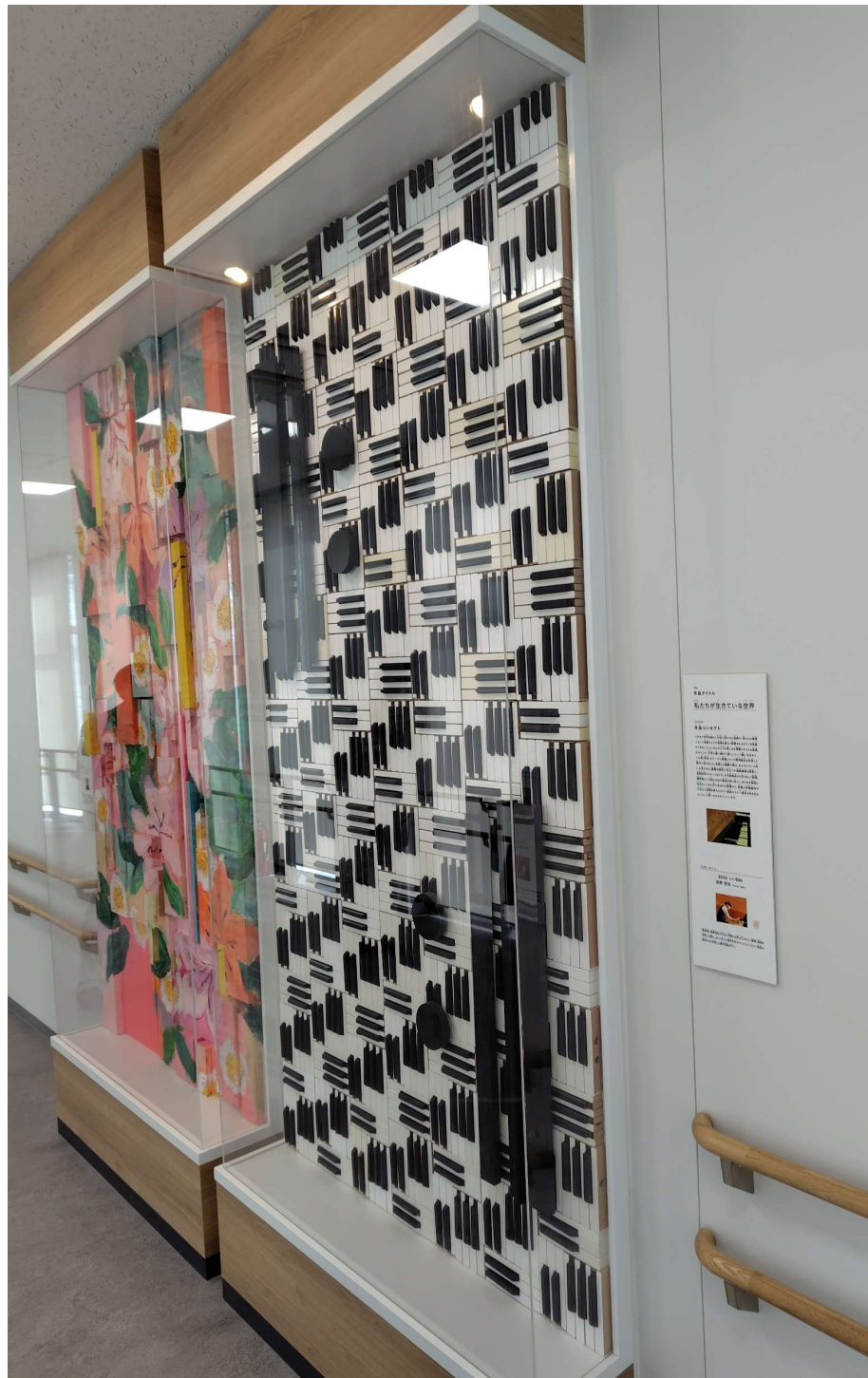
デジタルサイネージ（タッチ操作可能）



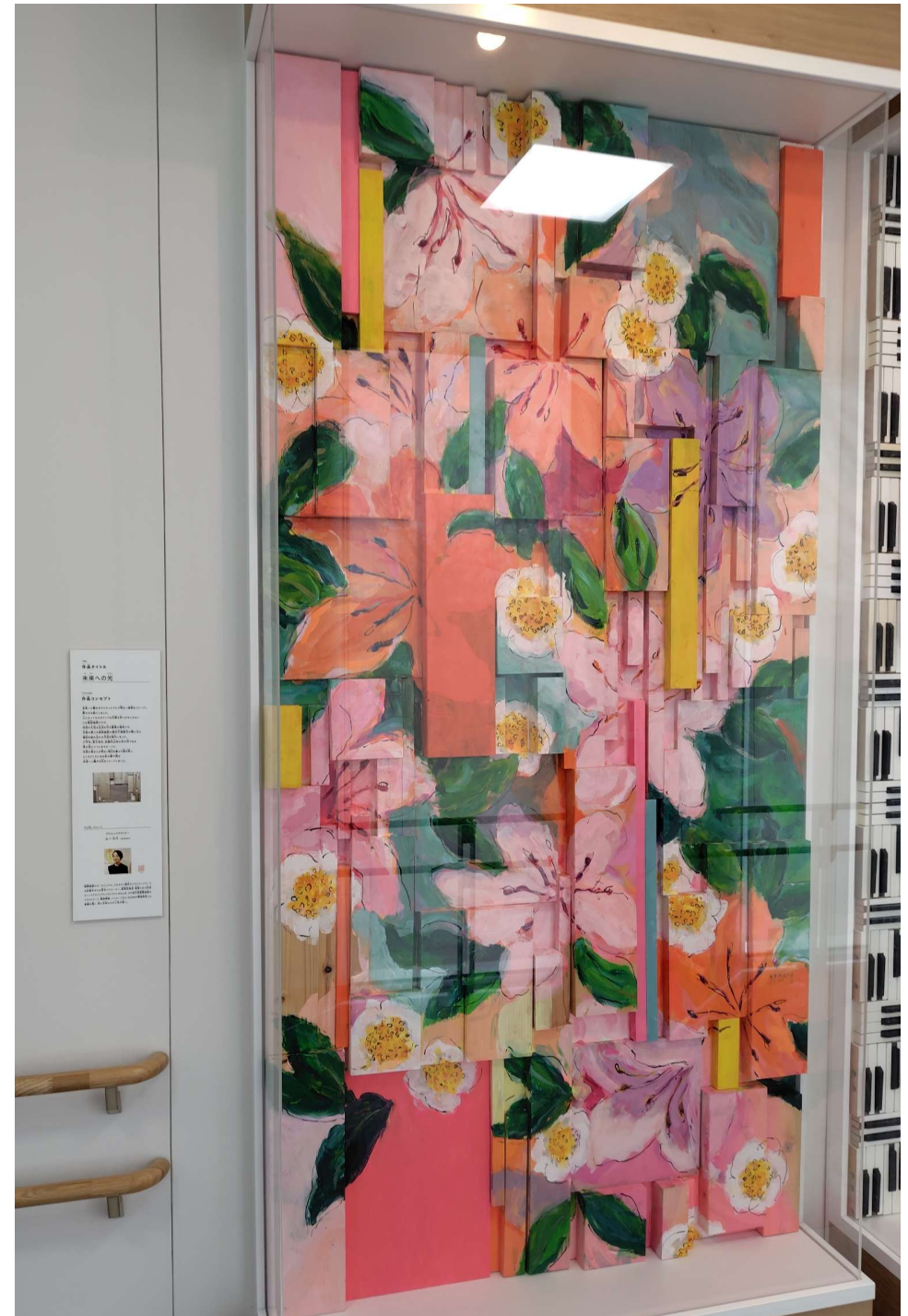
灰ピット



廃材等を利用した作品展示①



廃材等を利用した作品展示②



ごみクレーン展示



環境展示

家庭から出る 燃やすごみのゆくえ

なぜ燃やすの？

ひとつは衛生面への配慮。
生ごみや食べ物などをそのまま埋めると
悪臭や害虫、さらにメタンガスが発生して
火災が起こるなどの問題が生じます。
もうひとつは、ごみを燃やすことで
容積は約20分の1、重さは約10分の1に
減らすことができるからです。

燃やすごみの
35%は生ごみ
生ごみの約80%が水分なので、
水切りや乾燥させることで
ごみの減量につながります。

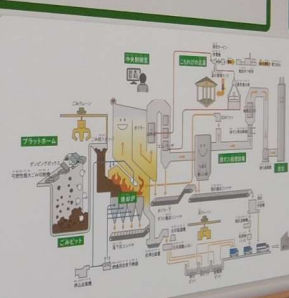
3つの市で日々走る
ごみ収集車は
約**220**台
(小笠原 東大島 東京都小笠原市)

一世帯から出る
1日のごみの量は
約**1.8Kg**
(二世帯を4名で算出)

パッカー車1台に
積めるごみの量
約**200**袋
(2トン車、45Lのごみ袋で算出)

ごみ焼却施設に持ち込まれる
1日のごみの量は
約**160**トン
(パッカー車 約60台分)

ごみ焼却施設での 焼却のながれ



ごみを 無駄にしない工夫

発生する熱を利用して発電し、
施設が利用した電気を全量
送電する
送電コストは
約**6,100**円/トン
(2023年度)

焼却後の灰は
約**1/20**
の量になる
量は約1/10
の量になる

灰は
リサイクル
される
量は約1/10
の量になる

炉室前（窓がスクリーンになっている）



こもればの湯（地元還元施設・足湯）



旧工場（左）と新施設（右）



新施設外観



渡り廊下（建設中・建設中の管理棟へつながる予定）



建設中のよりみちパーク（新施設とつながる予定）

